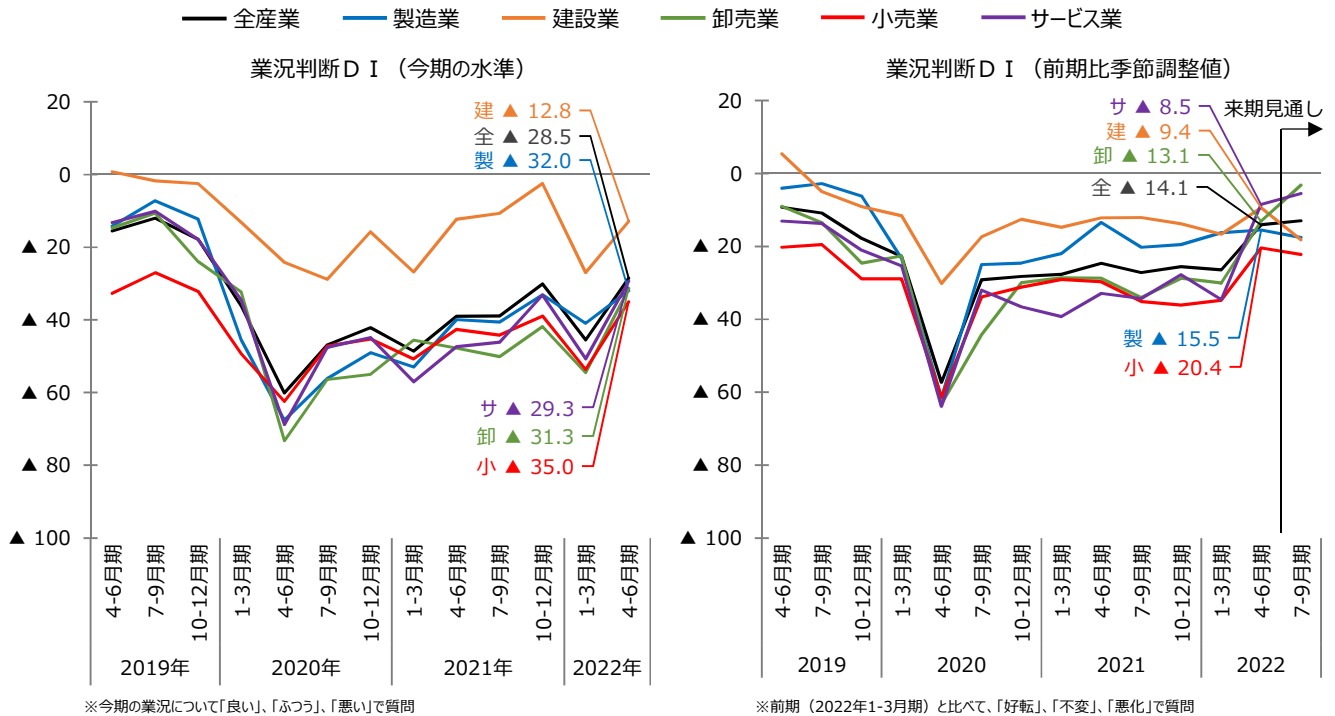


第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 北海道



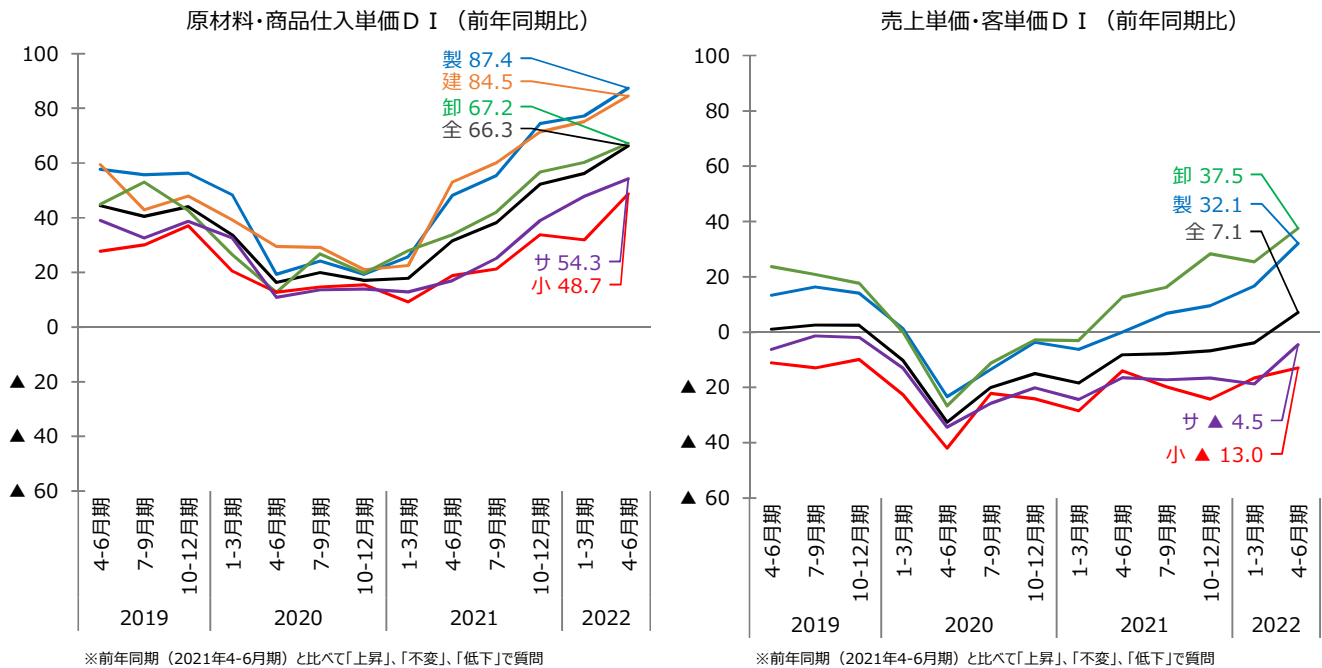
① 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より17.0ポイント増の▲28.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると卸売業、サービス業、小売業、建設業、製造業の5産業すべてで上昇した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より10.1ポイント増の66.3と6期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より11.0ポイント増の7.1と5期連続して上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。

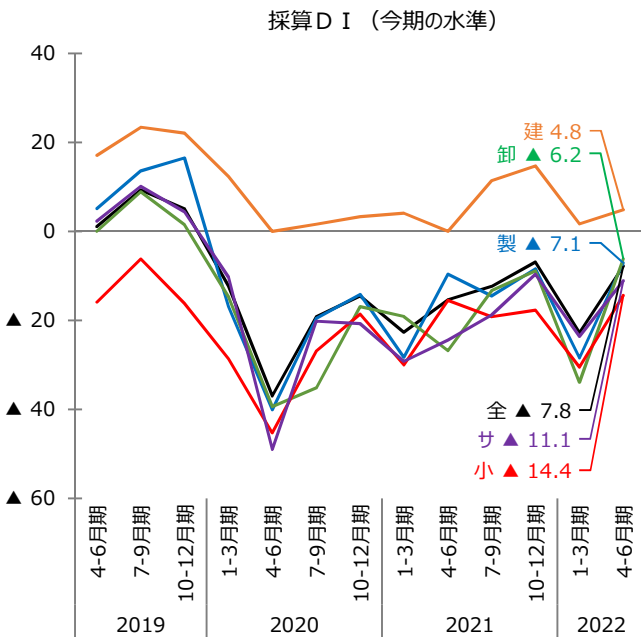


<調査概要> 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、北海道：739企業

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より15.0ポイント増の▲7.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、小売業、サービス業、建設業の5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	コロナ禍に於いてまん延防止解除により前期に比べ売上増なるも、原燃料の高騰の影響で原材料及副資材の上昇もありコストアップの要因となり厳しい状況。ユーザーへの価格修正が急務となる。	製造業 紙器製造業
	コロナ禍からの世界経済回復、そして、ロシアのウクライナ侵攻の影響で、原材料価格の大幅な上昇が続き、材料不足もなかなか解消せず、自社の企業努力ではどうしようもない、停滞感を感じています。	建設業 一般管工事業
	円安と仕入価格の上昇で販売単価が上がっている。これから先ももう一段の値上げを考えている。消費者がこの価格上昇にどこまでついてくるか不安。ただ、コロナが通常になり紳士物が動き出して来た。	卸売業 靴・履物卸売業
	まん延防止等重点措置が解除されて、幾分戻りかけているとは言え、6月から各メーカーの値上げラッシュで頭が痛いです。10月からの本格的値上げまでに、何か対策を講じなくてはならない状況です。	小売業 酒小売業
	本来であれば来期は好転の見込みあり。しかしながら今期従業員が減ってしまったので、従業員の補充ができないと仕事をクリアすることができず、今後の営業に悪影響を及ぼすこと必至。事業として死活問題である。	サービス業 自動車一般整備業
見通し	所得が伸びない中安価な物を求める消費者が一段と多くこだわり商品の売れ行きが伸びず、今後更に低下する事が予想される。	製造業 他に分類されない食料品製造業
	材料価格の上昇及び調達期間の長期化に伴い、採算の悪化が予想されます。また、観光・飲食分野の新築・改修工事が少ないことから、予定事業案件の一部未消化がおきており、コロナの影響は色濃く続いております。	建設業 一般土木建築工事業
	4月、5月と特に客数、客単価の落ち込みが目立つ。6月以降も消費マインドの停滞が続くそう。生活必需品の値上げ、年金の減少、暗い世相など、コロナ禍に引き続き、影響が続くそう。	小売業 医薬品小売業（調剤薬局を除く）
	客単価の減少、仕入単価の上昇で厳しくなると思われたが、利用客数増加に救われた。まだ仕入単価の上昇が見込まれる。	サービス業 自動車一般整備業
	原材料の高騰で原価率が大きく上がったものもあり、安易な値上げもできないため、値上げ幅、タイミングに苦りよしている。	サービス業 食堂、レストラン（専門料理店を除く）

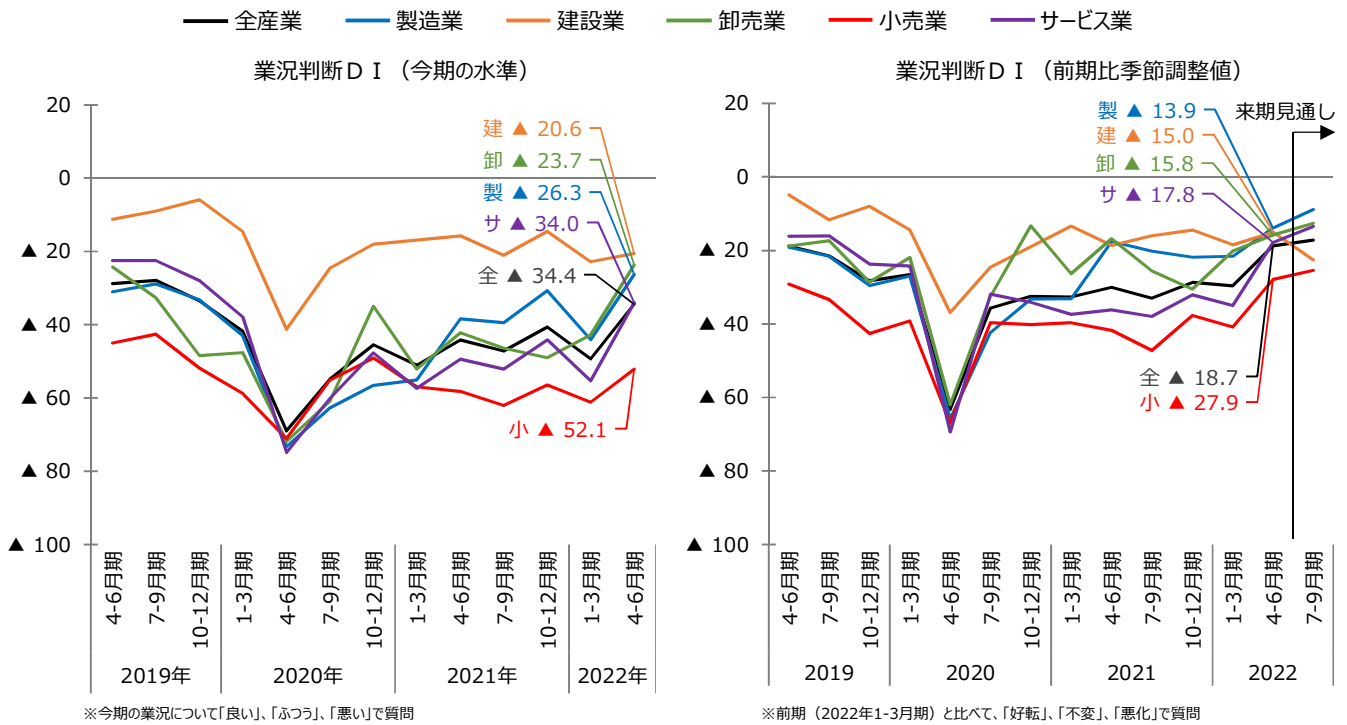
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 東北

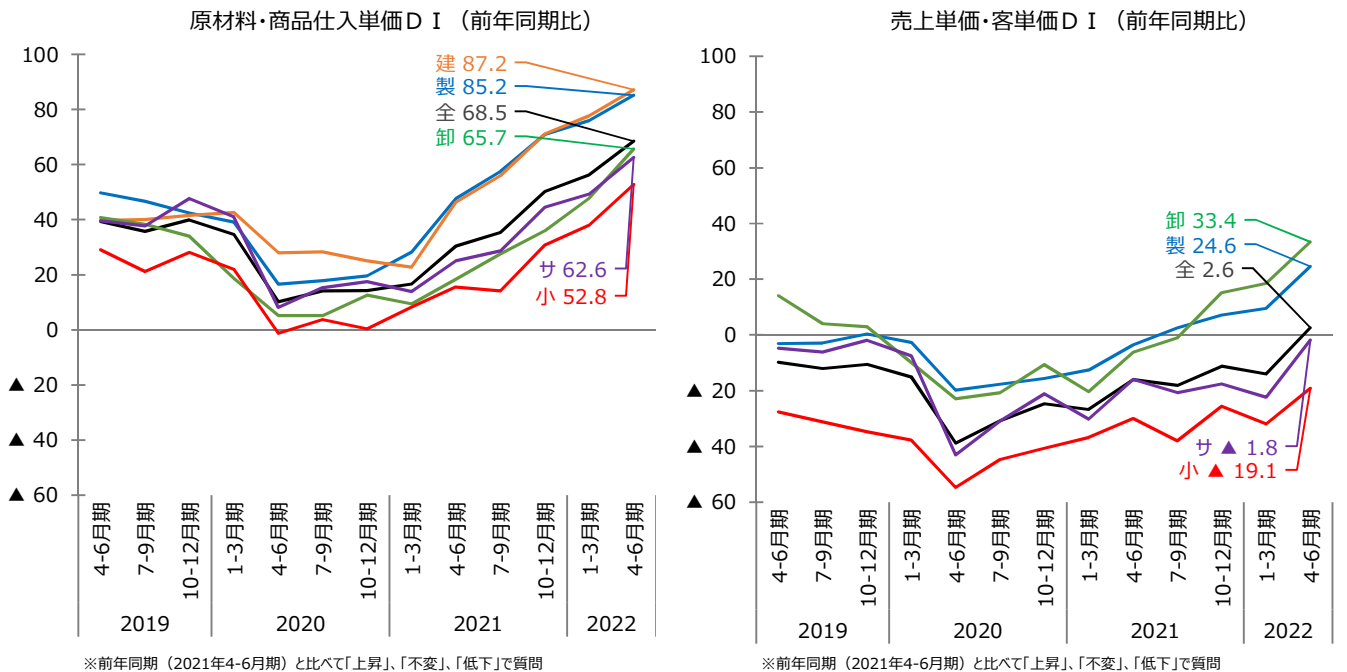
① 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より14.9ポイント増の▲34.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、卸売業、製造業、小売業、建設業の5産業すべてで上昇した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より12.2ポイント増の68.5と8期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より16.6ポイント増の2.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



＜調査概要＞ 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

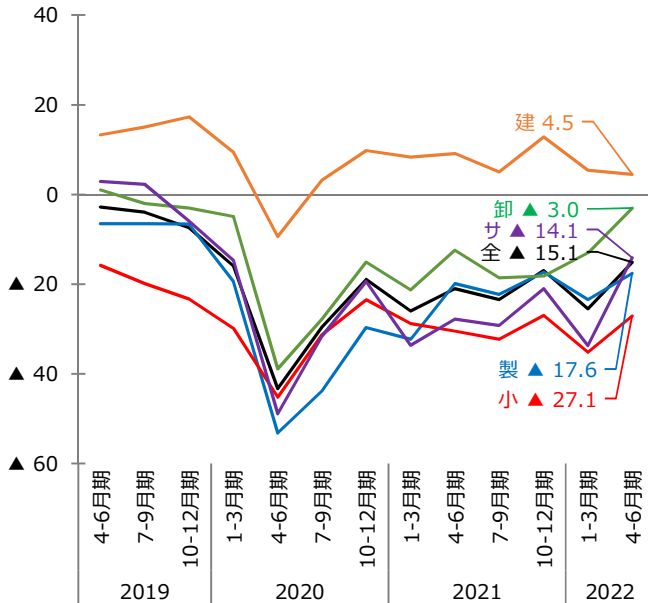
今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、東北：1,886企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 東北

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より10.4ポイント増の▲15.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、卸売業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	比較的悪いながらも安定期に入った感があります。従業員不足の解消が一番の課題であり中々むずかしいです。受注については、例年にならぬほどの安定ですが、利益に結びつかないです。	製造業 織物製成人女子・少女服製造業(不織布製及びレース製を含む)
	人材の確保がむずかしく、仕事はあるが進みが悪く思っている様に完工高があがらない現状です。ベトナム人実習生も次の人材がコロナの為に来ず人材確保に悩んでいます。	建設業 塗装工事業(道路標示・区画線工事業を除く)
	ウクライナ紛争により、ロシア産商品の入荷が激減し仕入価格が上昇しているが、販売価格に全ては転嫁できない。また、石油の高騰により、車両燃料、電気料等あらゆる経費が値上がりしており負担が重い。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	海外ロックダウンの影響で、生活家電の仕入難が発生している。給湯器、洗濯機、OA機器ならプリンター等が取り合いになっている。今後、品種が更に広がる気配で、売上に大きな影響が出そうで心配だ。	小売業 電気機械器具小売業(中古品を除く)
	コロナの影響による需要の停滞は底になり、次第に人流の動きを感じる。3月の地震、エネルギー等仕入単価の上昇に伴ない、宿泊料金の見直しや価格の転嫁を行ないながら収益性の改善に努めたい。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	コロナや燃油高騰、原材料価格の上昇が経営を圧迫している。様々な物の価格が上がっている中でも農産物価格が上昇しないため、今後もきびしい経営が続く。	製造業 他に分類されない食料品製造業
	材料が昨年上がったばかりなのに来月6月にも値上がりする予定で、かつ、今年度中にも、もう一度値上がりするだろうと販売店から通知がありました。	建設業 防水工事業
	コロナウイルスの影響が少しずつ緩和され、量販店需要が落ちついてきた。一方、業務用とされる外食に関しては、復調の兆しがみえ始めている。これからお盆にかけてさらに、需要回復が望まれる。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	仕入単価の上昇がこれからも続くことをすでに仕入元から伝えられており、客単価に利益分を上乗せできない。仕入上昇分しか上乗せできない。その事で客数が減る事も考えなければならない。	小売業 飲料小売業(別掲を除く)
	コロナも落ち着きを見せる中、客足と言う点では好転すると思われるが、仕入れの単価上昇が影響する点を見ながら商品単価の見なおしを考え、業況を見たい。	サービス業 配達飲食サービス業

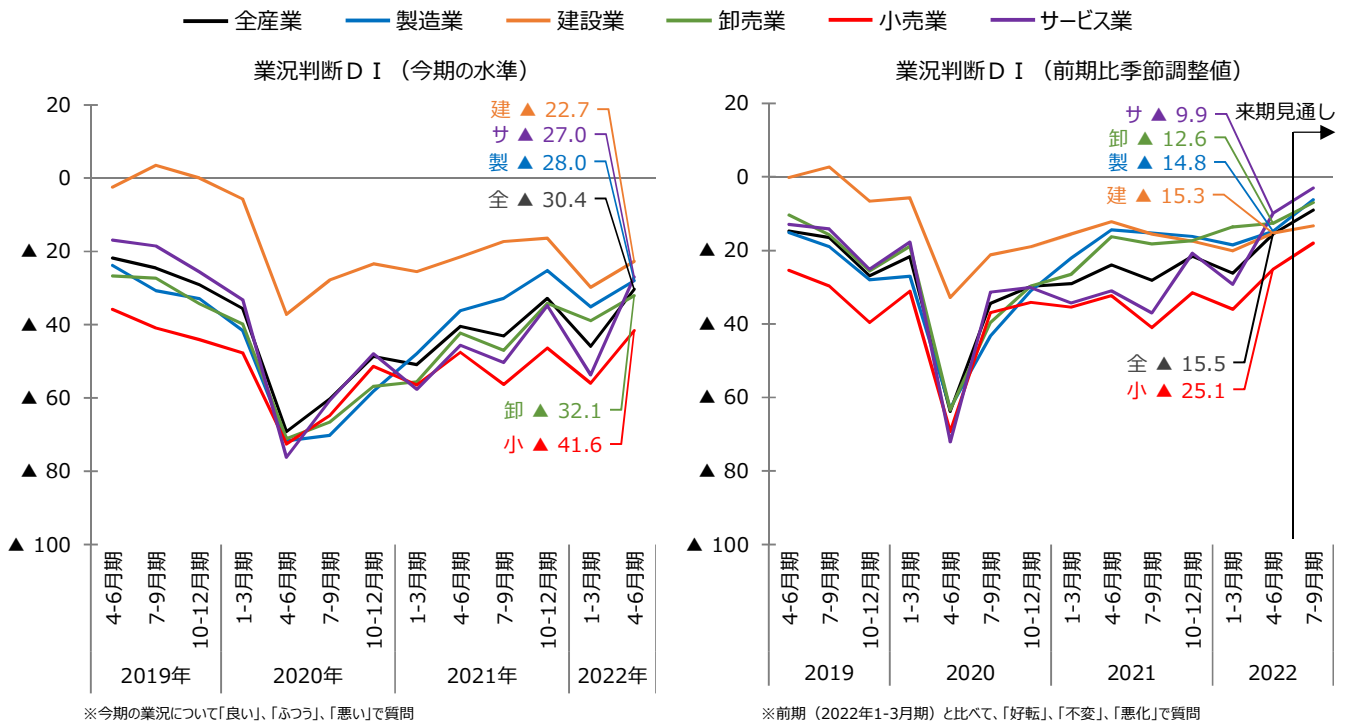
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 関東

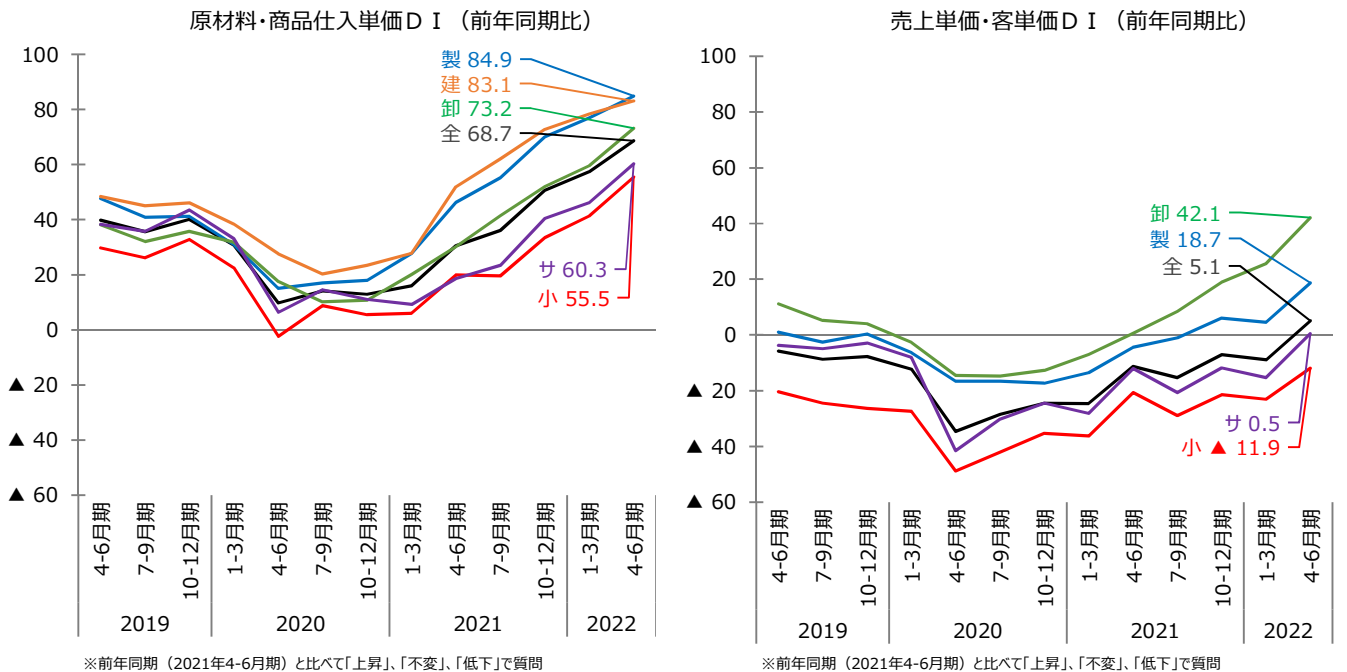
① 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より15.5ポイント増の▲30.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、卸売業、建設業、卸売業の5産業すべてで上昇した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.3ポイント増の68.7と6期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より14.0ポイント増の5.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



<調査概要> 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

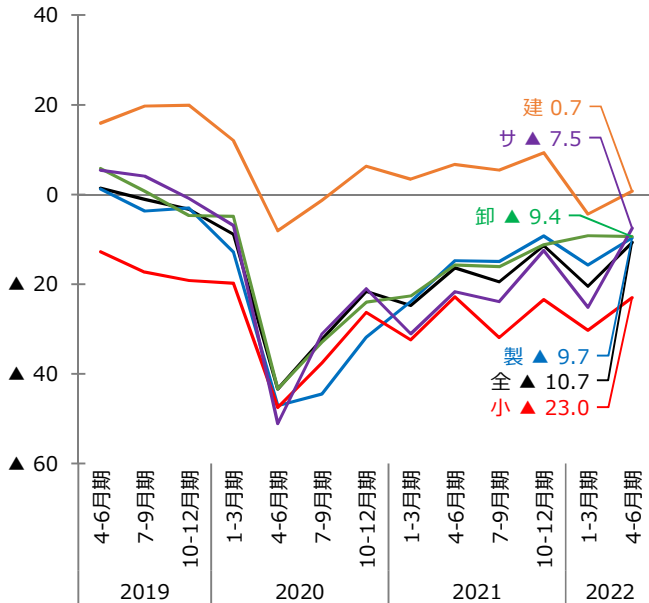
今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、関東：4,937企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 関東

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より9.8ポイント増の▲10.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、製造業、建設業で上昇し、卸売業で低下した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	ウッドショックは、おさまつつあるが、価格は高値で安定している。ウッドショックにより、住宅の価格が1～2割程度上がっているが、円安にて輸入品が値上げしており、お客の検討期間が長引いている。	製造業 集成材製造業
	コロナの影響で資材等の価格上昇や入手困難な状況が続いている。そのため工期に間に合わせるため資材の発注を早めにする等対応している。需要は増加傾向に感じる。	建設業 木造建築工事業
	木材・建材とも値上げ幅が大きく、販売単価に転嫁しにくい、値上げ分売上げが増している。	卸売業 木材・竹材卸売業
	粉等の原材料、ガス代等エネルギーの経費が異常になっております。商品をもっと値上げしないと追いつかないのに、これ以上なかなか上げられないので板挟みとなっております。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	まん防解除後は緩やかではあるが売上は回復し伸びてきている。今後の感染状況次第で少しずつ良くなっていくと思われる。現在の課題としては乗務員の確保と燃料単価の高騰が特に厳しい状況です。	サービス業 一般乗用旅客自動車運送業
見通し	原材料価格は上がっているが、この先も更なる値上げが予想される。加えて、電気料金等も上がる。しかし、なかなかコスト上昇分を製品価格に転嫁できない。	製造業 他に分類されないプラスチック製品製造業
	現在は、売上増加傾向にあるが、今後減少していかないか不安を感じている。仕事量が増えても人員の確保が難しい。	建設業 一般管工事業
	仕入単価の上昇、納品時期の遅れ、光熱費の上昇など利益下押し要因が重なり、厳しい業況が継続する見通し。	卸売業 家具・建具卸売業
	今後大幅な食用油・小麦・包装材等の値上がりが見込まれることから、店頭価格を値上げせざるを得ない状況になった場合に、売上げが減少（来客数の減少）することを懸念しています。	小売業 食肉小売業（卵、鳥肉を除く）
	コロナも3年目になってしまう中、少しずつですが売上も伸びてきていますが、物価上昇で仕入材料費が上がってきており、今後の経費に影響が心配されます。	サービス業 旅館、ホテル

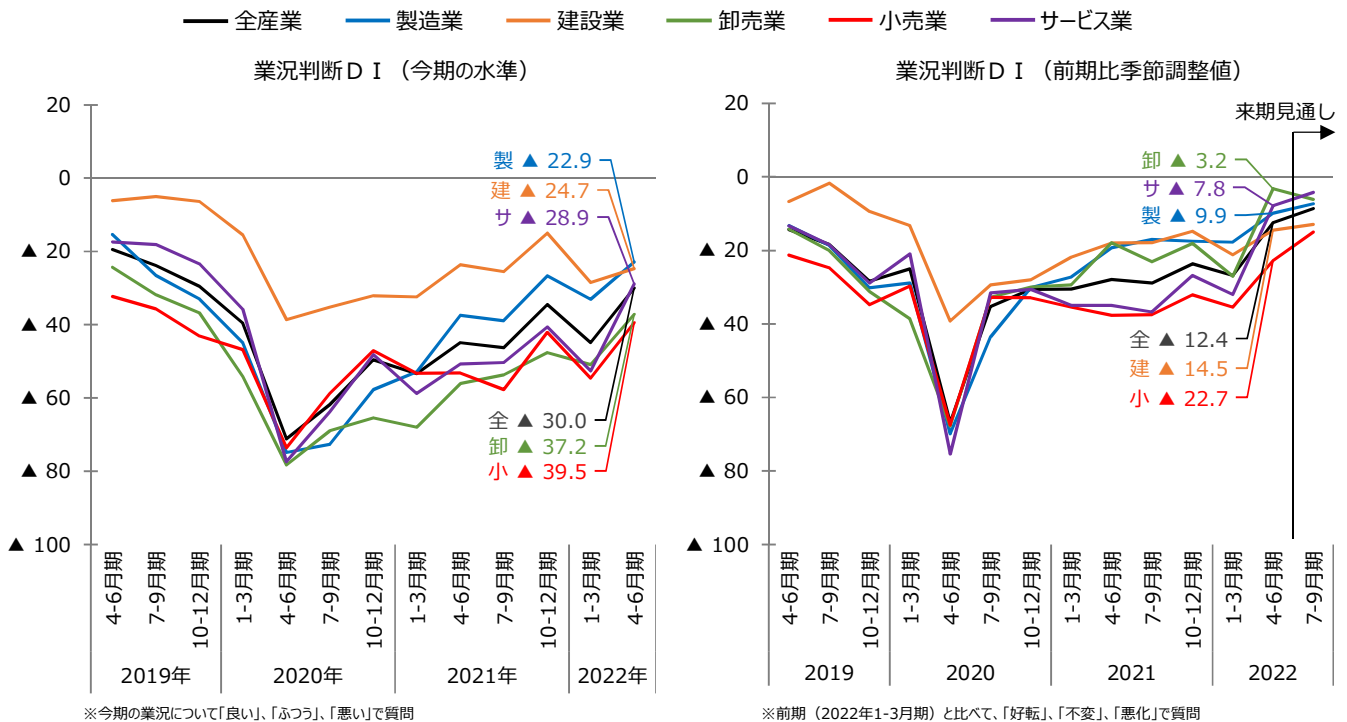
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 中部

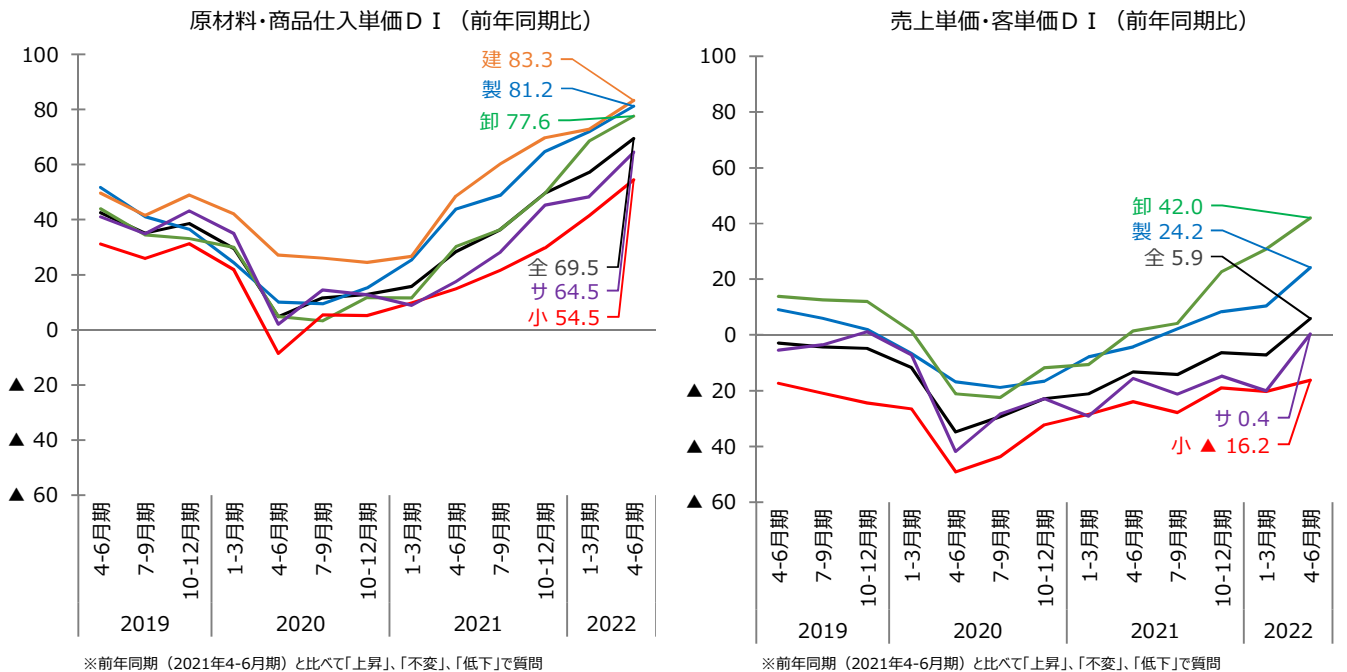
① 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より14.9ポイント増の▲30.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、卸売業、製造業、建設業の5産業すべてで上昇した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より12.3ポイント増の69.5と8期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より13.1ポイント増の5.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



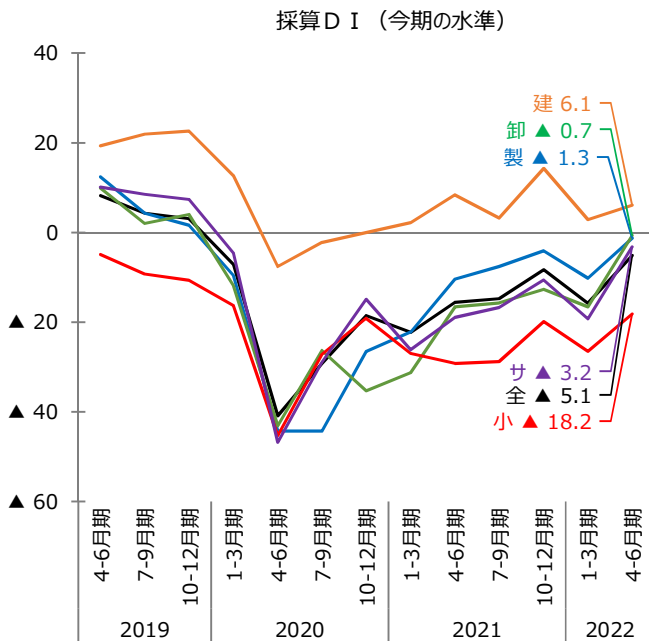
<調査概要> 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、中部：2,288企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 中部

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より10.7ポイント増の▲5.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、卸売業、製造業、小売業、建設業の5産業すべてで上昇した。



④ 中部の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	食品製造業を営んでいるが、小麦・砂糖・玉子・食用油・燃料等、原材料価格が軒並み上昇している。加え、それを価格に転嫁できていない。現在より高価格で売れるような新商品開発、新市場、顧客開拓が課題である。	製造業 ビスケット類・干菓子製造業
	材料価格の上昇が著しく、全体的な工事の需要が減少しているのに加え、材料価格の上昇分を請負単価に十分に転嫁することが出来ず採算が悪化。一方で人件費の上昇傾向は続いており、収益低下に拍車をかけている。	建設業 板金工事業
	仕入単価や経費の値上がりが急で、販売単価に反映出来ない。売上高は上昇しているが、そのまま利益に結び付かない。	卸売業 織物卸売業（室内装飾織雑品を除く）
	蛍光灯や電球など小物商品が仕入れ価格値上りしつつある。又、仕入れの商品の入荷に日にちがかかり、お客様にご迷惑をかける事が多くなった。接客に気をつけて、商売していきたいと思う。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	仕事は入ってきていますが、社員の高齢化が進み、若い人材を増したいのですが、なかなか入ってこないのが現状です。	サービス業 警備業
見通し	現況は、売上高・利益率も順調に推移しております。しかしながら、原材料高は今後の収益を圧迫するでしょうし、原材料・資材不足が続くと考えられます。売上高の確保も困難になるのではと予測します。	製造業 その他の陶磁器・同関連製品製造業
	材料価格上昇が著しく、それに伴って請負価格の上昇が続いている。今後もその状況は変わらずに続くと思われる。社会的に値上げの雰囲気のあるなか、利益確保できる値上げが出来ている。ある意味、好ましい状況である。	建設業 板金工事業
	食品を取扱っているということもあり、業況は、大きく変化なく、安定したものといたします。度重なる仕入値の上昇に伴う売値の上昇が、今後どのように影響するのか、見守りたい。	卸売業 砂糖・味そ・しょう油卸売業
	原材料の高騰により仕入れ値が上がり、それに伴い商品単価を上げなくてはならない。しかも今後の値上げもどこまで上がるか分からず、値上げのタイミング、値上げ幅に悩んでいます。	小売業 パン小売業（製造小売）
	少しずつイベント等も戻ってきていると思うので、イベントに向けてお客様がいろいろ動いてくれるとお店への入店も増えてくると思うので期待しています。	サービス業 美容業

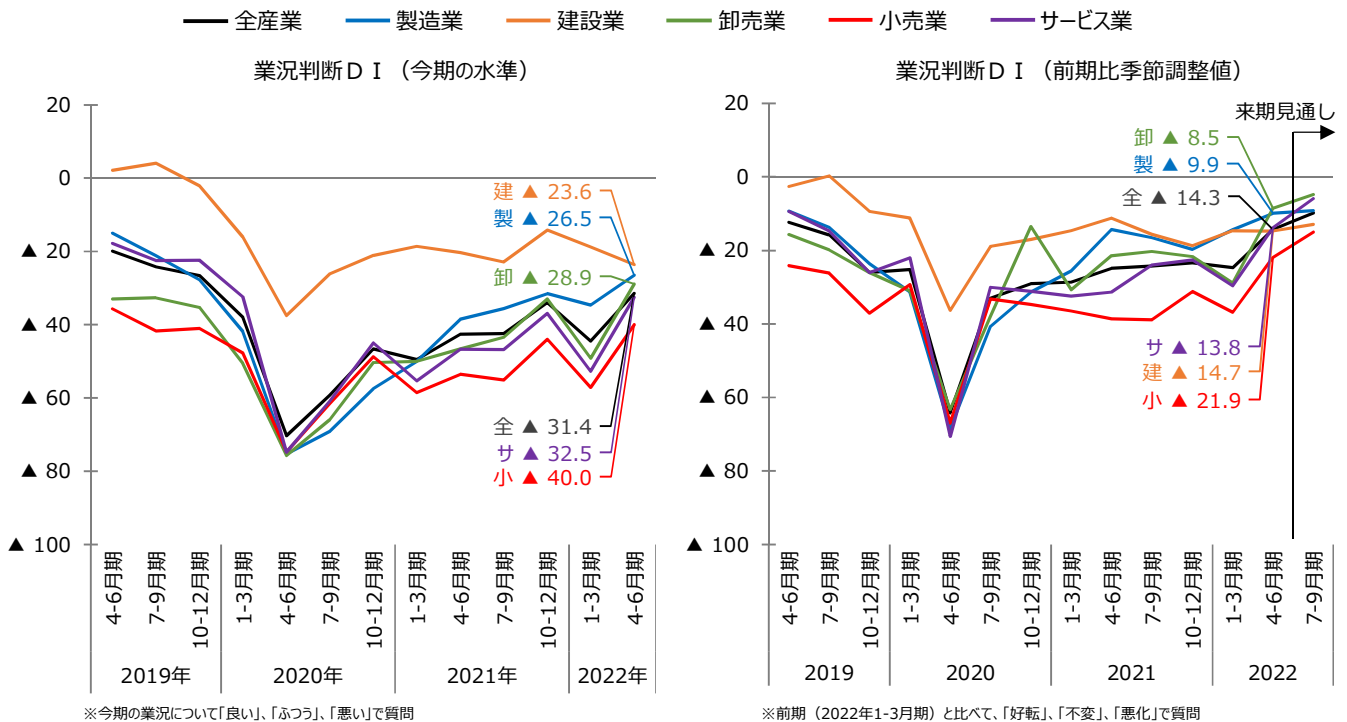
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 近畿

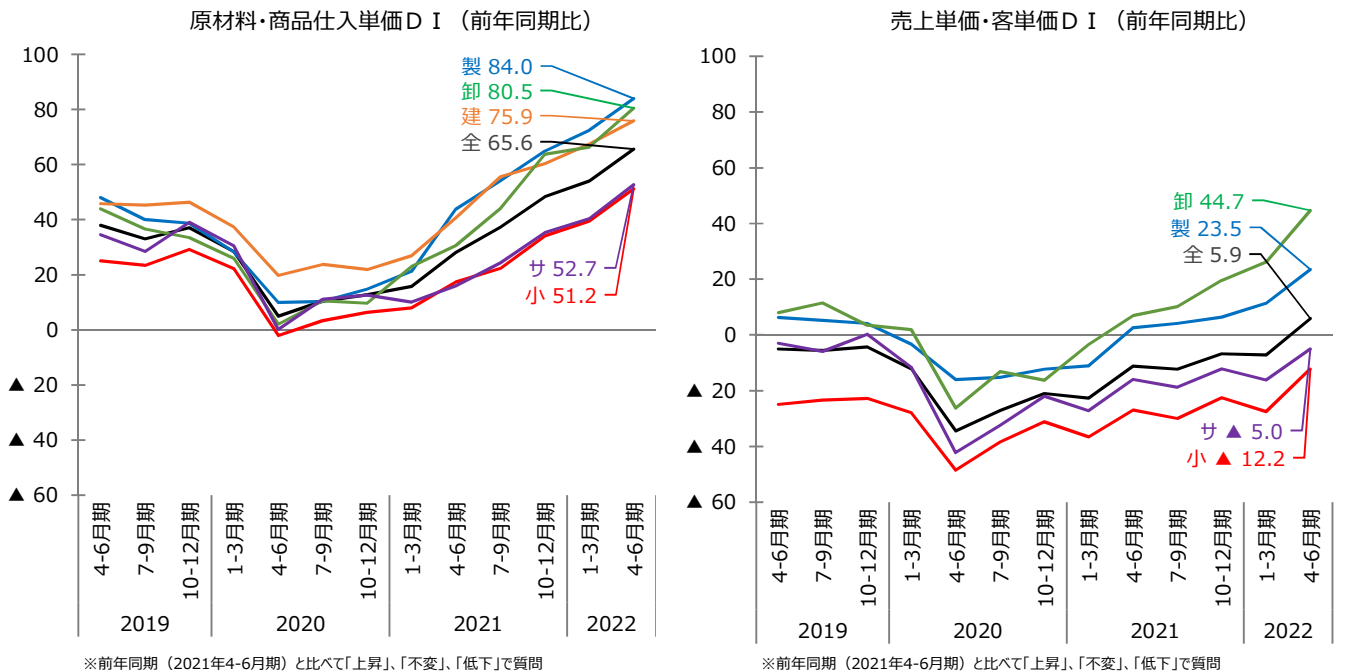
① 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より13.1ポイント増の▲31.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると卸売業、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.6ポイント増の65.6と8期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より13.1ポイント増の5.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



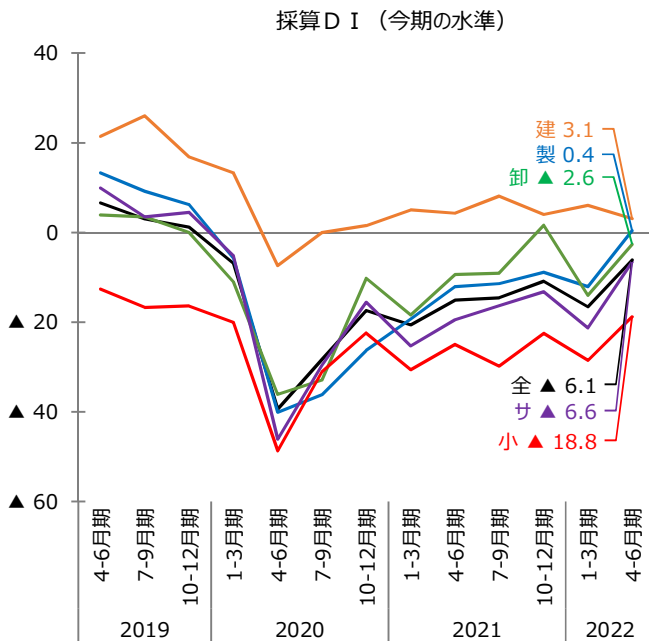
＜調査概要＞ 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、近畿：2,540企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 近畿

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より10.5ポイント増の▲6.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	原油・ナフサの急激な高騰により、仕入価格の大幅な上昇となっている。原材料の不足も重なり、経営に大きなダメージを与えている。半導体関連の受注は好調だが価格転嫁出来ていないため収支悪化。来月より値上する。	製造業 他に分類されないプラスチック製品加工業
	材料の入手難による工期の遅れ。材料の高騰の為、売上の見込みがたない。ロシアからの材木等が入ってこない。	建設業 木造建築工事業
	為替、原材料の高騰により、仕入単価は短期間で20%以上、値上がりしています。また、原材料の確保難から需要に対する納期も大幅に長期化しています。販売価格転嫁遅れ、販売機会の喪失等、現状が続けば大変厳しい。	卸売業 その他の産業 機械器具卸売業
	原材料、包装資材、配達費（ガソリン高）上昇の影響から、5月店内全商品の価格見直しを行なったが原材料については既に次の値上げが決まっている。平日のお客様の購入額が減った様に感じる。	小売業 パン小売業 (製造小売)
	今期1月～3月は厳しい受注難でしたが、4月以降コロナ禍以前のきざしが見えてきてイベント等も回復してきているので、今後に期待しています	サービス業 広告業
見直し	原材料、資材、すべてにおいて値上げの為、利幅が減少している。今後も、原材料の値上げが確定している。	製造業 めん類製造業
	半導体が入りにくくなっており、工事の受注が減るかもしれない情報があります。これから影響があるかもしれません。材料費も少しずつ値上がりしてきました。	建設業 一般電気工事業
	原油価格高騰と円安による仕入単価の上昇や、運送費の上昇に伴う経費増に直面しております。販売価格への転嫁が上手く進むかが今期の大きなテーマとなりそうです。	卸売業 その他の各種商品卸売業
	仕入単価が上昇しており売価も上げざるをえない状況です。ただ売価を上げるとお花を購入される機会が減り売上が下がってしまうのとロスが増えるので大変です。	小売業 花・植木小売業
	今期は年始からのコロナ状況で業績不振となったが、まん防解除後は客数が回復しつつある。世界情勢の変化から今後は原材料費の値上げの影響を確実に受けられるので値上げ等のタイミングを考えていかなければならない。	サービス業 他に分類されないその他の飲食店

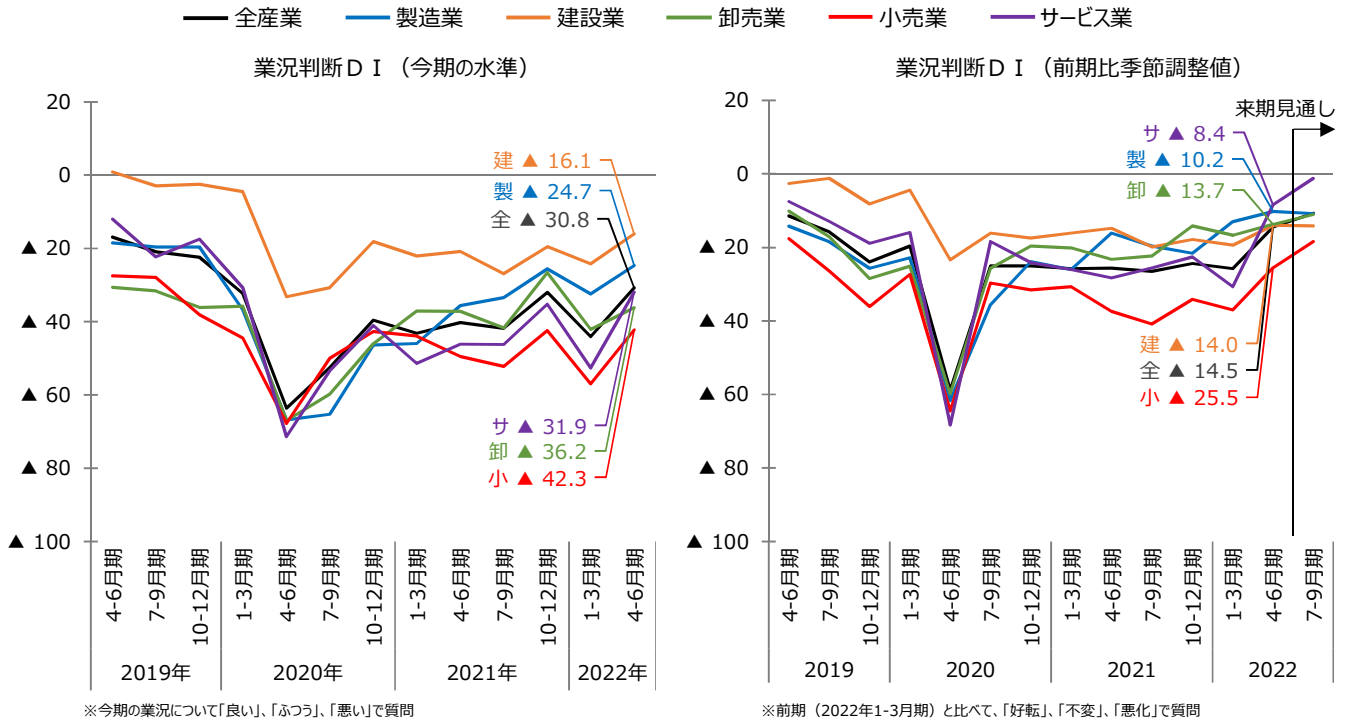
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 中国

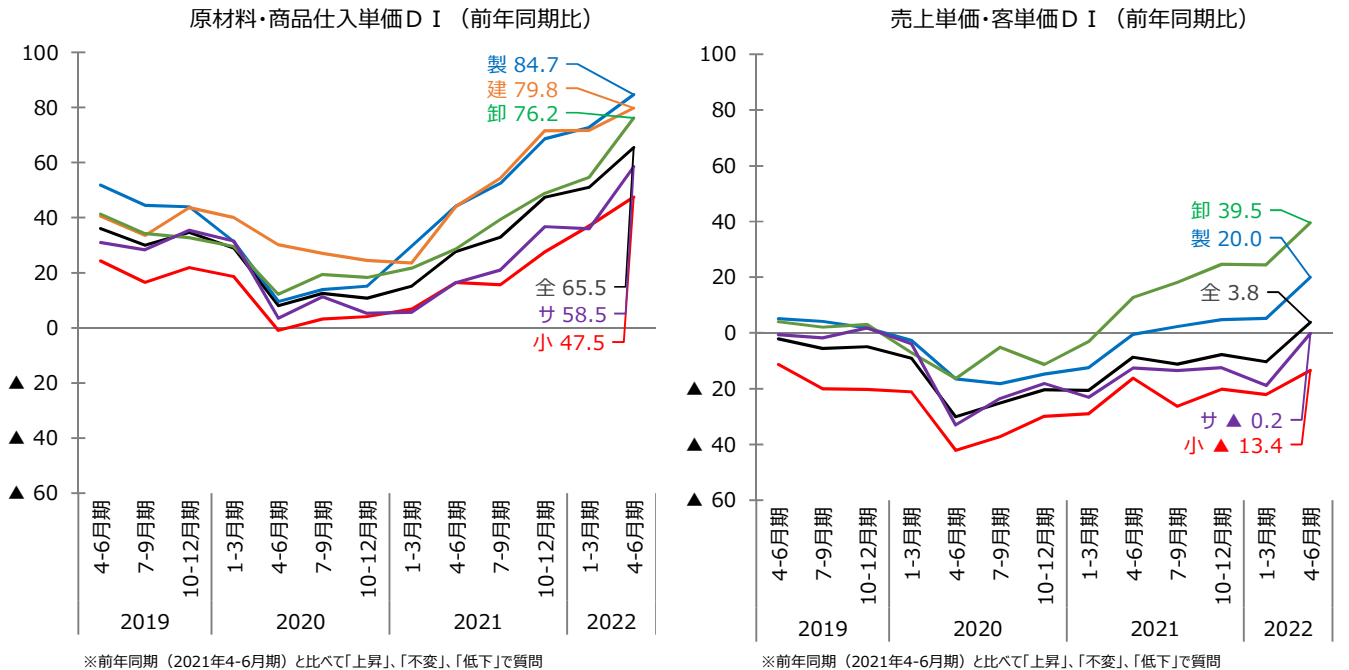
① 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より13.3ポイント増の▲30.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、建設業、製造業、卸売業の5産業すべてで上昇した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より14.4ポイント増の65.5と6期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より14.1ポイント増の3.8と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



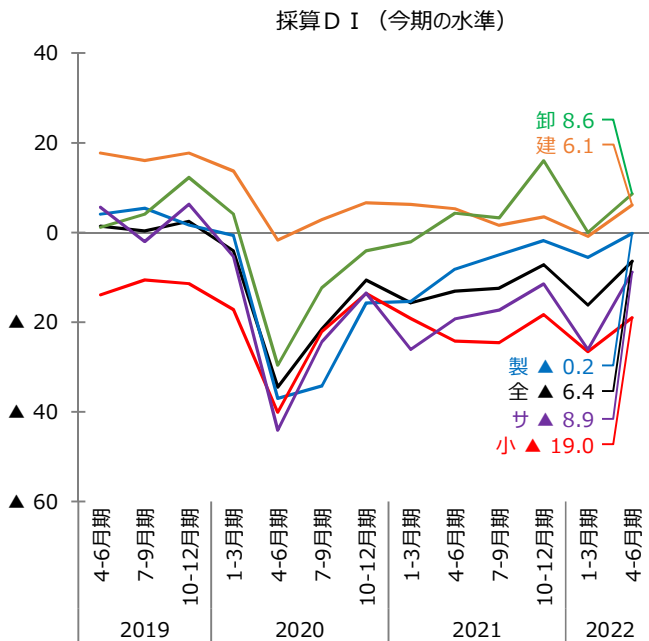
<調査概要> 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、中国：1,698企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 中国

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より9.8ポイント増の▲6.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、卸売業、小売業、建設業、製造業の5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	紙を筆頭に原材料価格の高騰が経営を圧迫している。価格転嫁の依頼をしているが、失注に繋がる事も多く簡単ではない。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	材料価格の上昇により、受ける時に請負金額の中の材料代がほとんどをしめて、人件費経費などにまわす部分が少なくなり、経営を圧迫されている。	建設業 鉄筋工事業
	半導体等の部品不足の影響による納期遅延が売上にマイナスに影響しているが、F A 事業では製造業の設備投資増加により受注は増加している。今年度前半からの値上げが今後の業況を左右すると考えている。	卸売業 電気機械器具卸売業(家庭用電気機械器具を除く)
	原油価格の高止まり、為替の円安により、仕入価格も高値で推移しているため、利益が減っている。半導体不足により、住設機器の納期が不確定であり、工事の予定が組めない。	小売業 燃料小売業(ガソリンスタンドを除く)
	ゴールデンウィークは徐々に観光客が戻ってきたが、忙しい日とそうでない日の差が激しいことが多く、対応が難しい。来期は夏休みに観光客が増える予想のため好転の見通しだが、地元客は依然として消費が鈍っている。	サービス業 喫茶店
見直し	この業界では輸入資材が高騰し品不足が続いています。資材も以前は木材関係だけの値上げでしたが最近では、仕入商品も含め運送費等々の経費もすべて値上げ要請があります。今後も先の見通しがつかない厳しい状況です。	製造業 事務所用・店舗用装備品製造業
	今年4月以降は材料価格の上昇と運賃などの値上げが続いており利益が出し難い状況となっている。設計単価の見直しを早期に実施して市場に沿った請負価格に近づく事を期待する。	建設業 舗装工事業
	観光系への売上は改善しているが、飲食等の業務用系の回復が、とても遅い。加えて、家庭用量販店での出荷も停滞しており、今後も値上げ等の影響で、買い控えなどが予想され、厳しいと感じている。	卸売業 酒類卸売業
	上海のロックダウンで、商品によっては入荷しなくなっている。今後は仕入計画がより大切になってくる。それに重点を置いて、計画仕入、計画販売を行ってゆく。	小売業 電気機械器具小売業(中古品を除く)
	感染の収縮期に現在入った事もあり、キャンペーンの再開等が始まっており、除々にてはありますが、予約数は伸びてきています。このまま夏休みまで続いて行けば、一息つくるとは思いますが、中々現実には厳しいでしょう。	サービス業 旅館、ホテル

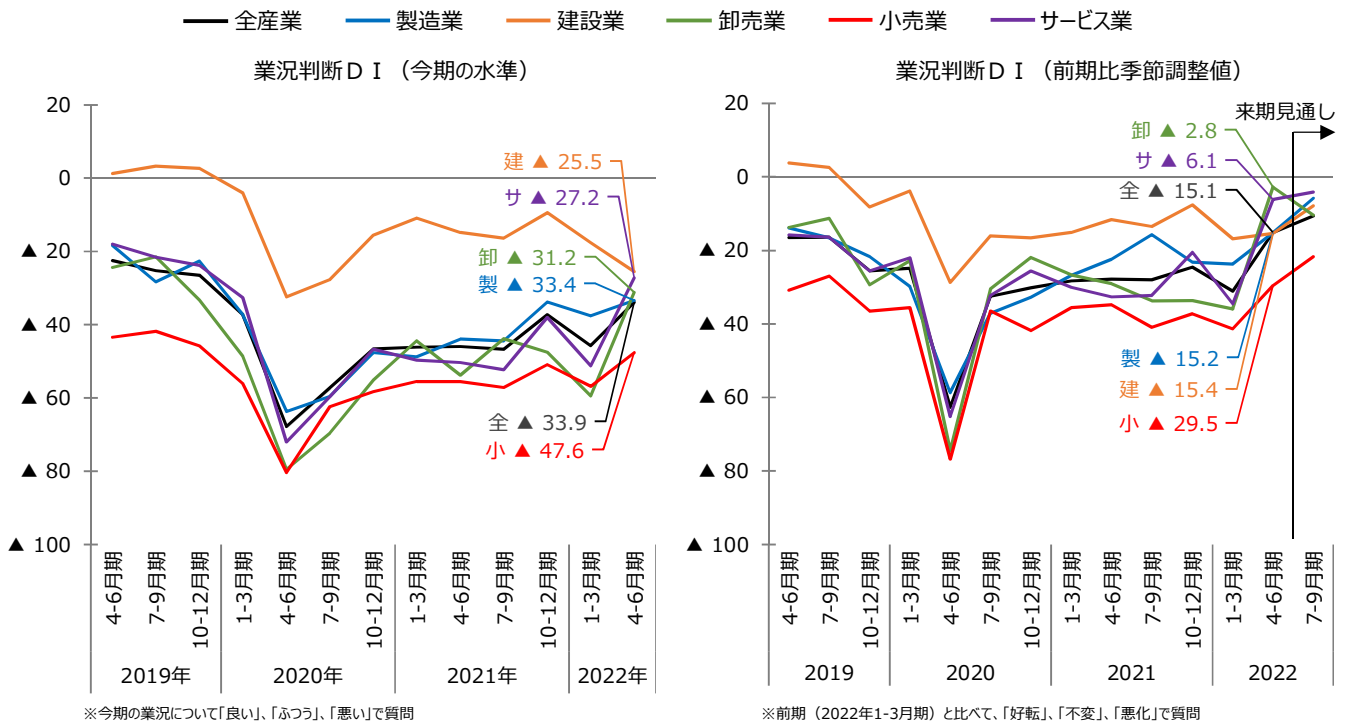
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 四国

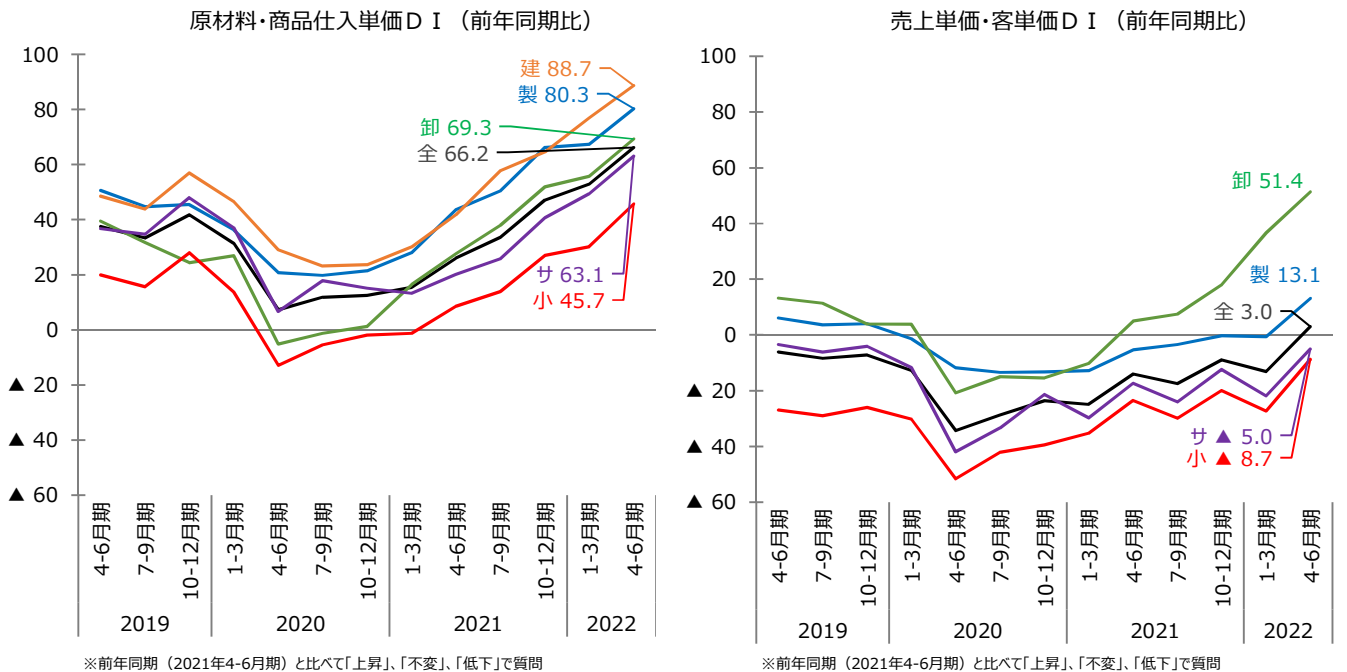
① 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より11.8ポイント増の▲33.9と2期ぶりに上昇した。産業別にみると卸売業、サービス業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より13.3ポイント増の66.2と8期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より16.1ポイント増の3.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



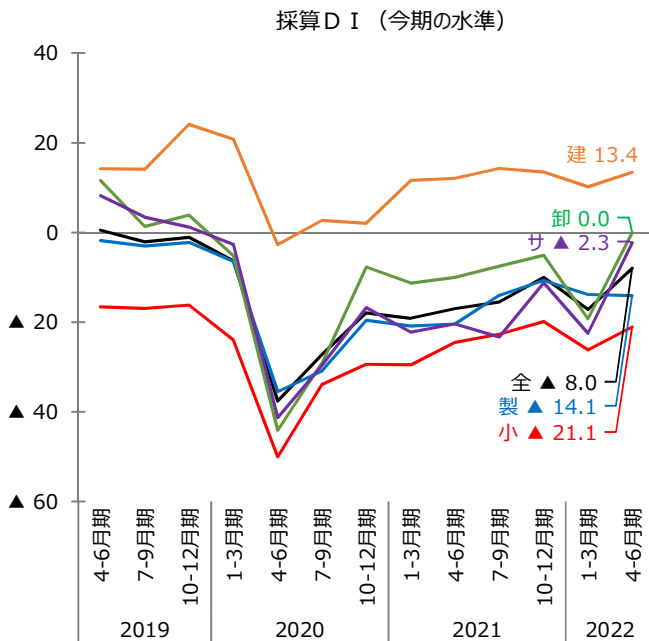
＜調査概要＞ 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、四国：1,279企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 四国

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より9.2ポイント増の▲8.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、卸売業、小売業、建設業で上昇し、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	原材料価格の上昇が、引き続き業況に与える影響は少なくありません。製品の単価への反映はできていますが、未だ上昇が続いて終わりが見えな状況となっています。加えて人員の不足も依然として、続いています。	製造業 鋳鉄鋳物製造業（鋳鉄管、可鍛鋳鉄を除く）
	資材単価がここ1年間で180%～200%以上に値上がりしている状況で、2～3ヶ月単位で上昇中であることから労務費が圧縮されているのが気になります。	建設業 冷暖房設備工事業
	去年の10月ぐらいから今年にかけて仕入単価の上昇が2回以上あり対応に苦慮。中国等海外からの商品がスムーズに入荷しない等あらゆる面で流通によき時期ではない。	卸売業 その他衣服卸売業
	仕入単価が1年半の間に1.5倍上昇しているが、売値を上げきれないで利益は下がっている。顧客も値上げに敏感になっており、販売価格も上げづらい状況にある。	小売業 燃料小売業（ガソリンスタンドを除く）
	コロナ禍によりここ数年、売り上げが落ちこんでおり、お客様のご来店回数、客足も遠のいておりましたが、今年は少しだけ回復して来た感があります。今後も物価上昇等の不安は残っております。	サービス業 美容業
見通し	主原料を中心にあらゆる原材料で価格上昇がおきている。当社でも9月以降の値上げを予定しており、実行後のお客様の購売行動の変化がどうなるか不安である。景気動向をとらえながら最終判断する。	製造業 飲食品製造業
	材料の急激な値上りにより、採算面できびしいのは当然のことながら、今後建築の計画そのものが中止になるなどの事態も考えられる。資材の値上りは続くようなので業績悪化が非常に心配される所である。	建設業 鉄骨工事業
	原油価格の上昇により経費がアップしており、売上金額の回復分で十分に補うことが出来ていない状況。観光外食の動きは戻っているが、コロナ前の1割減程度の状況である。今後も当面はこの様な形が続くと思う。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	材料の価格上昇が昨年から続き大変です。ロスを少なくし、利益を確保するように心がけている。ロシアの問題で年末にかけて小麦粉の大幅な価格上昇が心配です。	小売業 パン小売業（製造小売）
	材料等仕入単価の上昇が続いている。今すぐに料金の値上げをする事は考えていないが、中長期的には考えないといけないと感じている。	サービス業 理容業

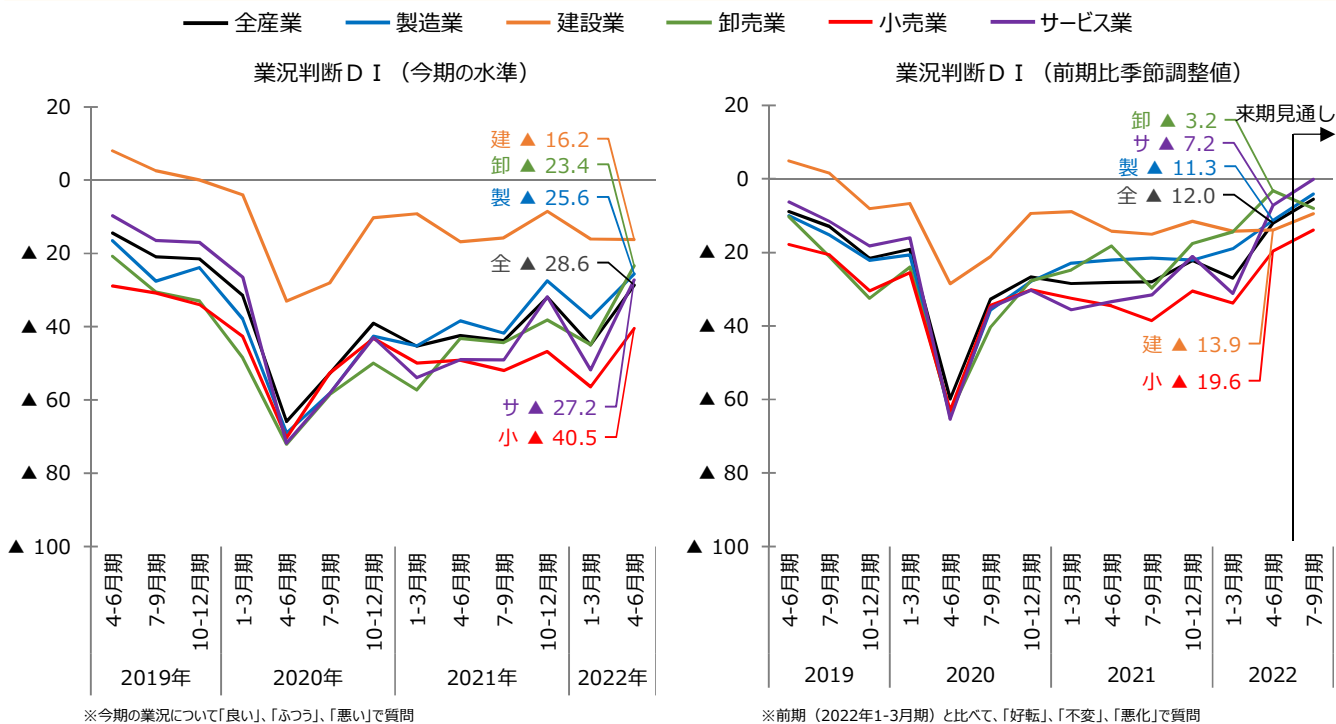
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 九州・沖縄

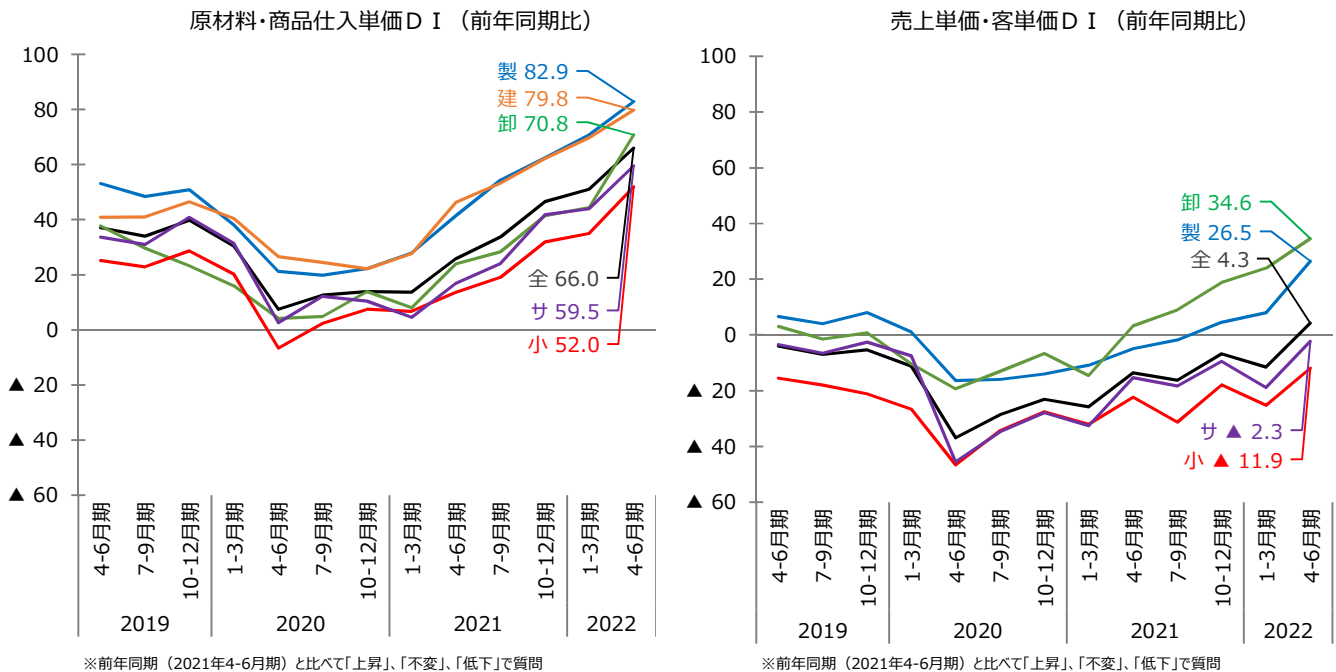
① 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より16.4ポイント増の▲28.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、卸売業、小売業、製造業で上昇し、建設業で低下した。



② 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より14.9ポイント増の66.0と5期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より15.8ポイント増の4.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。



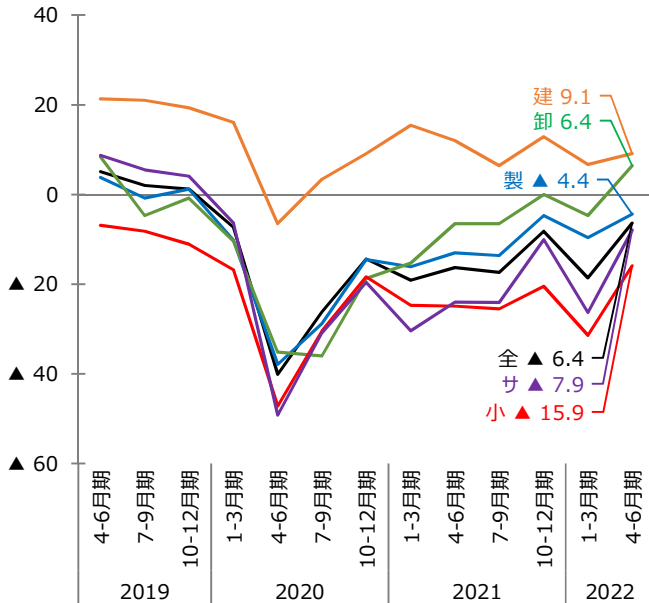
＜調査概要＞ 調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853 有効回答企業数：18,137 有効回答率：96.2% うち、九州・沖縄：2,770企業

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より12.2ポイント増の▲6.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、卸売業、製造業、建設業の5産業すべてで上昇した。

採算DI（今期の水準）



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 九州・沖縄の中小企業の声

		業況判断の背景	業種
現状		コロナ禍の影響はかなり落ち着きを見せてきた。しかし、材料費の高騰や、部品の入手困難が続いており装置開発の計画が延期されるケースもある。受注状況が急激に悪化する事も考えられ、予断を許さない状況にある。	製造業 <small>他に分類されない生産用機械・同部分品製造業</small>
		昨年9月、今年の4月と材料代が2割ずつ高騰しており、短期的な資金繰りが悪化している。新築工事の内装受注はあるが、リフォームは減っている。	建設業 内装工事業
		まん延防止等重点措置の緩和及び新型コロナワクチン接種の進展等から、対前期比では改善傾向にある。しかし一方で、仕入単価の相次ぐ上昇から、販売単価への転嫁が追いついておらず、収益難の状況が大いに懸念される。	卸売業 米麦卸売業
		状況が好転していると思われるのは、体感だけでなく数字の上でも表れていて、GWも客足が戻っているように感じる。コロナ患者の数が激減しているわけではないがこのまま良い方向に向かうように期待したい	小売業 その他の各種商品小売業
		イベント等の開催が復活しつつあり、また自粛のムードが薄くなってきているため、リピーターの方やツアーが戻りつつある。しかし、物価上昇により、収益が好転しにくい現状である。	サービス業 旅館、ホテル
見通し		昨年より原材料価格が上昇し続けている中、円安もありさらに高騰している。年始に商品を値上げしたが、年内にもう一度、値上げしないと採算がとれなくなるかもしれない。	製造業 水産練製品製造業
		仕入単価の上昇が予定されており、先行が不透明。人手不足は深刻であり、受注が増加すると対応が厳しくなる。	建設業 一般電気工事業
		建築資材、燃料の高騰等のマイナス要因と、脱炭素の流れと建物の断熱窓改修の補助金等のプラス要因が入りまじっている環境である当社の強みを活かして機会をとりこんでいきたい。	卸売業 板ガラス卸売業
		仕入単価の上昇、材料代がかなり上がっている。そのため、商品の値上げを6月から行うので、お客様がどの様に動くのかが分からないので不安である。	小売業 菓子小売業（製造小売）
		県内の事業の動きが活発になってきているので、今後は受注の期待がもてそうである。デジタル化に向け、ニーズが高まっているのを感じるので、デジタル人材のマッチングをすすめていきたい。	サービス業 その他の情報処理・提供サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。